

上マージン 25mm

日本語「MS 明朝」、英数字「Century」とする  
(図表内に関してはフォント指定なし。ただし図表にて見やすく統一すること)

左マージン 25mm

タイトル (12 ポイント・MS 明朝・太字)

Title (12 point・Century・Bold)

1 行あける

右マージン 25mm

関大太郎 (関西大学教育推進部) (11 ポイント・MS 明朝)

吹田花子 (山手町大学教育学部)

Taro Kandai (Kansai University, Division for Promotion of Educational Development)

Hanako Suita (Yamatecho University, Faculty of Education) (11 point・Century)

1 行あける

## 要旨 (10.5 ポイント・MS 明朝・要旨タイトル太字)

要旨 (Abstract) は「論文」と「研究ノート」カテゴリで投稿する場合、ご記載ください。要旨 (Abstract) の分量は、本文が和文の場合は日本語 400 字以内、英文の場合は英語 200words 以内とします。

英単語の頭は  
大文字

全角スペース

半角スペース

1 行あける

キーワード ● 全カテゴリ、必要、3~5 語、10.5 ポイント、太字 ● All Categories, Necessary, 3-5 Words, 10.5 Point, Bold

全角スペース

1 行あける

全角

## 1. ● 見出し (10.5 ポイント・MS 明朝・太字)

半角

1 行 22 字、1 ページ 40 行の 2 段組みフォーマットとなります。サイズは A4 判、余白は上下左右ともに 25mm で作成してください。

本文日本語は「10.5 ポイント・MS 明朝」、英数字は「10.5 point・Century」でご記載ください。

1 行あける

### 1.1. 句読点について

句読点は「、」「。」を用いてください。

1 行あける

### 1.2. 図表について

図表には連番を付し、簡潔な見出しをつけてください。本文末尾にまとめないでください。

図表の幅は 1 段または 2 段とし、両脇の余白ができて文字を入れないでください。

幅 2 段分の図表の場合、ページの上部または下部に入れ、本文が 1 段目から 2 段目へ流れやすくなるよう整えてください。

図表の前後には空白行を 1 行ずつ設けてください。

表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に記してください。以下は、図の挿入例です<sup>1)</sup>

1 行あける

註は上付き

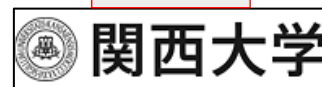


図 1 図表の挿入例

1 行あける

## 2. その他

### 2.1. 本文中の参考文献引用について

本文における参考文献は、和文表記では (著者名、刊行年)、英文表記では (著者名、刊行年) のように表示してください。複数の参考文献を同じ箇所に表示する場合は、「(山手、2013; 垂水、2015)」としてください。著者が 2 名の場合は「関大・吹田 (2019) は...」「Michael & Mike (2019)」とし、3 名以上の場合は「関大他 (2019) は...」「Michael et al. (2019) ...」としてください。同一著者の同一刊行年の異なる文献を引用する場合は、刊行年の後にアルファベットを付して区別してください。例: 2006a, 2006b, ...

全ページ、ノンブル入れない

下マージン 25mm

## 2.2. 註、参考文献、謝辞について

註・参考文献・謝辞は本文末尾に一括して記載してください<sup>2</sup>。

参考文献は、「註」の後に著者名のアルファベット順で記載してください。

一文献あたり 2 行以上になる場合は、1 文字ぶら下げインデントを設定する。

詳細は別紙「参考文献表記について」よりご確認ください。

註番号は上付き

### 註

① 図表番号の記載方法に指定はありません。和文は「図 1」「表 1」、英文は「figure 1」「Table 1」など、本文の語種に合わせてご記載ください。

<sup>2</sup> 本文中での「註」の指示は、上付きの連番で示す。また、「註」には括弧は付けないでください。

### 参考文献

Association for Teaching and Learning. (2012).

*Designing an Inclusive Classroom*,

(<http://www.atl.edu.us/xxx/xxxx/xxxx.12345.htm>), (2019.5.20).

Brooks, A., & Ball, C. (2001). *Designing*

*learning environment (Expanded 3rd ed.)*,

San Diego, CA: Uni Press. A・ブルックス,

C・ボール 関西文子訳 (2005)『学習環境デザイン』吹田山手出版。

Chin, A. J., & Gray, E. (2012). Communication skills: an active learning approach. *Journal of College Students*, 15(2), 28-50.

Johnson, A., McAdams, G., & Pawling, A.

(2005). Creating inclusive classroom. In P. M. Simpson, & K. A. Tanaka (Eds.),

*Internationalization of higher education*, pp.56-82. New York: Uni Press.

関大太郎 (2003)『関西大学における初年次教育の課題』 関西大学出版部。

凜風桜子 (2010)「高大接続と初年次教育」『高等教育開発ジャーナル』 12(1), 100-117.

Smith, T. (2007). *Modern Higher Education and*

*Society*, Los Angeles, CA: UNIV Press.

吹田花子 (2016)「大学が社会に果たす役割」 関大太郎・山手次郎編著『大学教育改革』, pp.63-86.関西大学出版部。

山手市教育審議会 (2010)『個人情報保護に係る指針』

(<http://www.suita.edu.jp/xxx/xxxx/xxxx.12345.htm>) (2019 年 5 月 20 日)

### 謝辞

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

一文献ごとに 2 行目からは 1 文字ぶら下げインデント

全ての英語表記、書名や雑誌名は斜体

注) 日本語表記の文献、末に Century 「.」